

「日本のプルトニウム利用について【解説】」の作成・公表に向けて

2017年9月26日
原子力委員会

I. 背景

我が国は、そもそも原子力の研究、開発及び利用をするにあたっては、1955年当初から、原子力の平和利用を大前提としており、プルトニウムの管理は厳格に行っているところである。加えて、1994年から毎年、自主的に「プルトニウム管理状況」を公表し（1997年には国際原子力機関（IAEA）が「プルトニウム国際管理指針」を策定）、国際的にも国内的にも、継続して透明性を確保しながらプルトニウムに関する政策を実施している。

一方、国際的には、プルトニウム管理とその削減の必要性に対する関心が高まっており、我が国におけるプルトニウムの管理とバランス確保の必要性は益々高まっていると認識している。

これらの状況を鑑み、原子力委員会では、毎年公表してきた「管理状況」のみでは、国際社会から見て我が国のプルトニウム利用に関する実態の把握や方向性の確認が難しいと考え、「国際社会に対して我が国の方針について適切に説明していくこと」が重要である旨、7月20日に「原子力利用に関する基本的考え方」において決定した（翌21日、閣議尊重決定）。国内的にも政府の説明責任の観点からも重要である。こうしたことから、今回、政策自体を議論するのではないが、我が国のプルトニウム利用に関する現状と今後のバランスの見通し等に関する説明を【解説】文書としてまとめ、和文・英文含めて公表していくこととする。

II. 主な構成（案）

1. 日本における原子力発電とプルトニウム利用の背景・歴史
 - ・ 日本のエネルギー事情：エネルギーの安定供給
 - ・ 日本の原子力発電
 - ・ 日本のプルトニウム利用の歴史
2. 日本におけるプルトニウムの利用政策
 - ・ 平和利用のための厳格な保障措置等の実施
 - ・ プルトニウム管理状況の公表
 - ・ 我が国が保有するプルトニウムの核拡散抵抗性
 - ・ プルトニウム利用の基本的考え方
3. 今後の見通し
 - ・ 軽水炉でのプルトニウム利用
 - ・ 日本原燃（株）六ヶ所再処理工場、MOX燃料加工工場の状況
 - ・ プルトニウム・バランスの確保

III. スケジュール

- 9月26日 原子力委員会定例会議において議論
- 10月初旬 「日本のプルトニウム利用について【解説】」の取りまとめ・公表
- 10月中旬 英語版作成、IAEA報告等